

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	建築学基礎演習Ⅱ	担当教員	建築学科教員	
学年学科	4年 建築学科	通年	必修	2単位
学習・教育目標	(D-2) 100% E10%			
授業の目標と期待される効果： 建築学に対する留学生の理解を深める効果をもつ。建築学基礎演習Ⅰから継続して、建築の3つの分野である、構造・環境・計画（設計製図を含む）の授業内容に関する補助教材を用意し、説明とその演習により学修の深度を深める。 ① 計画・設計分野の理解が深まる ② 構造分野の理解が深まる ③ 環境分野の理解が深まる		成績評価の方法： 課題・演習等の成果で評価する。 達成度評価の基準： 下記における課題・演習等に対する成果の完成度が6割以上であること。 ① 計画・設計分野の理解が深まったか ② 構造分野の理解が深まったか ③ 環境分野の理解が深まったか		
授業の進め方とアドバイス： 同級生と一緒に受講している講義と平行してこの科目の講義/演習は進めていくので、担当教員の指示を受け、計画的に進めること。				
教科書および参考書： 特に教科書はなく、補助教材・適宜プリント等の資料を使用する。				
授業の概要と予定：前期				ALのレベル
第 1 回：前期の授業進め方の説明と検討（柴田）				
第 2 回：建築計画に関する演習－1（藤田）				
第 3 回：設計製図に関する演習－1（清水）				
第 4 回：地域都市計画に関する演習－1（鶴田）				
第 5 回：建築計画に関する演習－2（藤田）				
第 6 回：デジタルデザインに関する演習－1（今田）				
第 7 回：設計製図に関する演習－2（清水）				
第 8 回：インテリア設計に関する演習－1（中谷）				
第 9 回：構造力学に関する演習－1（柴田）				C
第10回：鉄骨構造に関する演習－1（柴田）				C
第11回：RC構造に関する演習－1（犬飼）				
第12回：インテリア設計に関する演習－2（清水）				
第13回：環境工学に関する演習－1（青木）				
第14回：建築設備に関する演習－1（中谷）				
第15回：地域都市計画に関する演習－2（鶴田）				
第16回：フォローアップー成績評価方法の説明（柴田）				

授業の概要と予定：後期	ALのレベル
第17回：後期の授業進め方の説明と検討（柴田）	
第18回：情報処理に関する演習－1（柴田）	C
第19回：環境工学に関する演習－1（青木）	
第20回：設計製図に関する演習－1（鶴田）	
第21回：建築材料に関する演習－1（犬飼）	
第22回：建築設備に関する演習－1（中谷）	
第23回：建築計画に関する演習－1（藤田）	
第24回：設計製図に関する演習－2（鶴田）	
第25回：情報処理に関する演習－2（柴田）	C
第26回：鉄骨構造に関する演習－1（柴田）	
第27回：RC構造に関する演習－1（犬飼）	
第28回：構造力学に関する演習－1（柴田）	
第29回：建築計画に関する演習－2（藤田）	
第30回：構造力学に関する演習－2（柴田）	
第31回：技術者倫理に関する演習－1（下村）	
第32回：フォローアップ－成績評価方法の説明（柴田）	

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	設計・計画分野において、成果物が完成(8割以上)している。	設計・計画分野において、成果物がほぼ完成(6割以上)している。	設計・計画分野において、成果物が完成していない。
②	構造分野において、課題が完成(8割以上)している。	構造分野において、課題がほぼ完成(6割以上)している。	構造分野において、課題が完成していない。
③	環境分野において、課題が完成(8割以上)している。	環境分野において、課題がほぼ完成(6割以上)している。	環境分野において、課題が完成していない。